



## 第 1799 回例会

平成 26 年 8 月 18 日(月)

12:30~ 海南商工会議所 4F  
ガバナー公式訪問

### 1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「我らの生業」  
3. ゲスト紹介

第 2640 地区 ガバナー 辻 秀和 様  
代表幹事 山崎 規男 様  
ガバナー補佐 谷脇 良樹 様

### 4. 出席報告

会員総数 49 名 出席者数 35 名  
出席率 72.92% 前回修正出席率 81.25 %

### 5. 会長スピーチ

みなさん今日は。本日は、ガバナー公式訪問の日ですが、先ず最初に 8 月 8 日早朝に亡くなられた柳生享男くんと御家族のみなさんに哀悼の意を表したいと思います。あまりにも突然のことでのわがクラブは勿論のこと、他のクラブでもほとんど前例のないことだと思います、幹事が年度はじめ 1 ヶ月の早さで死亡するなんてことは。8 日の朝、連絡をうけとるものも取り敢えずご自宅にかけつけるとまだご近所の方もどなたも見えず、放心状態の奥さまとご長男が枕元に坐っておられました。ご遺体はまだ色艶もよく、声をかけたら返事をするような感じがしました。通夜・告別式には会員のみなさま、参列し、お手伝いしてくれたこと感謝申し上げます。

幹事の死去にともない、今日のガバナー公式訪問は控え新幹事の人選を急がねばということで、ここ幹事席に坐っている副会長の中西くんにお願いし、副会長には国際奉仕委員長であり、ガバナー補佐の谷脇くんにお願いすることにし、先週の理事会で承認をいただきました。2 年前の花田年度の幹事をまた副会長からひっぱりだし、ガバナー補佐として理事として忙しい



谷脇くんにも無理なことをお願いしたのにはわけがあります。あと 1,2 ヶ月というなら前幹事の大谷さんにお願いすることもありますが、なにせまだ 1 ヶ月しかたっていないから 2 年連続になります。これは気の毒な話です。チャーターメンバーの宮田さん、楠部さんにご相談し、このような人事になったことみなさんにお報告し、ご承認いただきたく思います。よろしくお願いします。

さて、本日は辻ガバナー公式訪問でございます。なにせ考えられないような突然の出来事で何の準備もできず、本日は何かと辻ガバナー代表幹事の方々には失礼なこともあるうかと思いますが、なにとぞ事情をご賢察の上よろしくお願ひ致します。

ありがとうございます。

### 6. 幹事報告 幹事 中西 秀文 君

#### ○例会臨時変更のお知らせ

海南西 R C 9 月 4 日(木) → 9 月 1 日(月)  
19:00~ 海南商工会議所 4 F  
(海南東 R C との合同例会)

#### ○堺フェニックスローターアクトクラブ R I 加盟認証のお知らせ

創立日 2014 年 7 月 7 日  
加盟認証日 2014 年 7 月 29 日  
例会場 堀フェニックス R C 事務所会議室  
例会日 第 2 ・ 第 4 金曜日 18:30 分開始

### 7. ガバナースピーチ

地区ガバナー 辻 秀和 様

皆様 こんにちは、本日は、2014 - 2015 年度地区ガバナー公式訪問でございます。先立ちまして、会長山東剛一様、幹事中西秀文様、ガバナー補佐の谷脇良樹様もご同席の上、会長・幹事懇談会を、なごやかに、かつ有意義にさせていただきました。今回、海南東ロータリークラブ様を、公式訪問させていただき、このように大歓迎をしていただき、大変な名誉でございます。衷心より感謝申し上げます。



#### 四つのテスト 言行はこれにてちしてから

- ①眞実かどうか ③好意と友情を深められるか  
②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長：山東 剛一 幹事：柳生 享男 S A A : 山田 裕之

クラブ会長 山東剛一様、ガバナー補佐谷脇良樹様、地区幹事中西秀文様、財団資金管理委員長花田宗弘様、はじめ会員皆様には、地区運営にご理解・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。海南東ロータリークラブ様と申せば、1975年7月に、歴史と伝統ある、海南RCをスポンサークラブとして、創立されました。

私は、海南東RC様には、大変ご縁が深く、創立20周年を、お迎えの頃から、今からですと約20年近く前から、大変お世話になっております。

元地区代表幹事の楠部賢計様、藤白神社の吉田昌生様、先の医王寺語住職故 橋本憲紹様、又その責任総代をお務めの小椋孝一様など、多くの事柄を、学ばせていただきました。このような人脈は、私の宝物でございます。クラブの週報の『にこにこ・BOX』によりますと、藤白神社様のことが、また、NHKテレビで放送される由、嬉しい限りでございます。

2005~2006年度ガバナー平尾寧章様を輩出されたクラブで、会員数も50名近く、会員平均年齢も62歳とバランスの取れた、素晴らしいクラブです。山東会長様のクラブ方針は、・出席率の向上・融和と調和・クラブ創立40周年記念事業・ロータクト、インタークトの活動支援・姉妹クラブ・友好クラブとの交流とどれもまさに、今この地区で最も求められている、重要な事柄でございます。

地域社会への奉仕、職業奉仕、国際奉仕、青少年奉仕にもバランスよく、すばらしい活動を展開されておられます。本年度RIテーマの『ロータリーに輝きを』を、しっかりと実践されておられます。

創立40周年を迎えられます節目に、さらに斬新的な、創造性豊かな、独創的活動を、継続されますよう御願い申し上げ、素晴らしいパワーを発揮されることを、確信いたします。ますますのクラブのご発展をご祈念申し上げます。

さて、先日公式訪問いたしました、堺 泉が丘RCの会長南川正一様は、実は私の大学の先輩でございます。関西のロータリーでは、本当に数少ない卒業生です。私の知る限り、富田林南RC、堺東南RC、に各1名程度おられるくらいです。余談ですが、東京農大の当時の校風は、自由奔放で、バンカラで、開拓魂豊かな精神が残っておりました。その校風で、私も何度も海外に奉仕に飛び出し、ついに JICA の青年海外協力隊でマレーシア国に飛びました。お陰さまで、とても言葉では言い尽くせないほどに、一人海外で、青年期に、貴重な体験を、積む事が出来ました。

海外で活動をする、国内で活動する、いずれにしても、人と人との交流は、常にそこに、お互いの相違はあるものです。相手を思いやる心、おもてなしの心、が肝心です。今このような、心が一番大切だということが忘れられて、当地区では、なかなか本来のロータリー活動に、戻れない大きな原因のひとつだと考えられます。一番必要なことは、この部分の、相互理解の

ような気がいたします。

本年度は、先の4月29日、R I会長ロン・バートン氏による地区紛糾裁定の継続を、本年度 R I会長ゲイリー・ホアン氏も認めておられて、私はそれを尊重し、裁定を踏襲いたします。すなわち、そこには、“第2640地区が、相違を乗り越えて前向きな解決作を見出せるよう、地区リーダーと地区ロータリアンが協力することを改めてお願いたします。” 続いて、それには“まずこれまでの紛糾を過去のものと考え始めて、地区を健全な状態に戻し、ロータリーを実践し、みんなに豊な人生を実現するための、眞の奉仕に取り込むことが出来るはずです。”と明記されてあります。それでは今、世界が、日本が、グローバル化し、多様性がすすむ中、考え方、方法論はいろいろございますが、目指すところはひとつ、地区内の会員皆様が願っておりますとうり、1日も早く、本来のロータリーを取り戻したいと考えます。

本年度は、今までの紛糾を過去のものとして、すべてを白紙に戻します。地区ガバナーの承認なき文章等の配布は、認めません。クラブ会長は、怪文書等をしっかりと検閲されて、クラブ会員に配布しないようする。

地区ガバナーからの告示等は、各クラブ会長が全会員にいきわたるよう、ご配慮お願いたします。バストガバナーには、必要な委員会の中で、お役目を御願いいたします。当面は、10月25日、26日の地区大会準備とそこでの決議で地区賦課金のご承認を得ることに、全力で努力いたします。地区大会は、従来にない手づくりの地区大会をめざして、大会二日目後半は、地元住民も参加頂き、楽しいロータリーデーを同時に開催いたします。大会に先立ち、10月20日は、大会記念チャリティーゴルフ大会も行います。

私も、ロータリー入会以来、クラブ活動、地区活動を通じて、海外の青少年や姉妹クラブにおける国際交流活動で、又地域での奉仕活動で、東日本大震災での被災地支援活動で、いずれにおいても、ロータリアンの仲間、ロータリーファミリーや一般の人々と共に、長年にわたり言葉では言い尽くせない、心温まるご支援やご協力を賜りました。日本の「思いやりの心」や「おもてなし文化」の一つ象徴であります。

さらに本年度、RI2640地区関しましても、ほとんど無条件にて、多くのクラブメンバーの方々には、地区運営の要として、ご協力賜っております。全てに、感謝!! 感謝!! でございます。皆様の絶大なるご協力を、引き続きお願ひ申し上げます。

世界が、日本社会が、グローバル化しつつ、多くの問題を未解決のままに、大きく転換しようとしています。そこで若者達は、今、何が出来るのか。世界を変えるには、自分を変えなければなりません。自身変えるために、勇気を持って海外へ、一步を歩みだしましょう。成功するには全く違う言語、文化、社会を経験する必要があります。

若いときの、海外での経験は、個人を変えるだけでなく、社会を、世界を、変える可能性があります。“自分を信じれば世界は変えられます。” ロータリーの留



学経験が世界平和のひとつ『鍵』なのです。ロータリーの国際交流活動が世界理解につながります。ロータリーの地域社会での奉仕活動も世界理解につながると考えられます。なぜならば、それは、ロータリーは、世界 201 カ国に、(34,282 クラブ) 約 120 万人の会員を有する、国際組織だからで、あります。ロータリーの活動はすべて『世界平和』につながります。

This is the Rotary !! This is the Rotary !!  
このあと、ガバナーの責務でございます。国際協議会  
のご報告をさせていただきます。

## 8. 閉會點鐘

## 次回例会

第 1799 回例会 26 年 8 月 25 日(月)  
海南商工会議所 4F 12:30~  
新会員卓話 藤山 陽三 君 花畠 重靖 君



## 幅広く寄付を募る クラウドソーシングのすすめ

米国のある男性は、クラウドソーシング（不特定多数の人びとにオンラインで支援をよびかけること）を通じて約 60,000 ドルの寄付を集めました。元もとの



呼び、多額の寄付につながったとのこと。ポテトサラダの改良に簡単に寄付が集まるのなら、お腹を空かせた子どもたちに食糧を送ったり、戦争で苦しむ国に学校を建てるための寄付も簡単に集まるのではと考えてしまうかもしれません。

しかし現実はそう簡単にはいきません。現在、数多くの人道支援団体が、世界中で実施するプロジェクトのために競い合って寄付を募っている状態です。

では、オンラインを利用した寄付集めを成功に導くにはどうしたらよいのでしょうか。その答えは意外とシンプルです。すばり、「寄付をしやすくする」ことがポイントです。皆さんのプロジェクトを支援する「サポーター」にとって支援しやすい方法とは何か。以下にいくつかコツをご紹介します。

ロータリーのアイデア応援サイトを利用する：アイデア応援サイトは、ロータリーによるクラウドソーシングのウェブサイトです。皆さんがプロジェクトの主催者である場合、支援が必要なプロジェクトの概要を掲載し、寄付、ボランティア、物資を募ることができます。また、掲載されているプロジェクトにボラン

ティアとして参加したり、寄付を行ったり、物資を寄贈することができます。

パウラ・ワインランド・バン・ズイルさん（ザンビアのリビングストン・ロータリークラブ）は、「アイデア応援サイトを通じて、エイズ孤児のための家づくりに必要な8人のボランティアを集めた」と話します。地元ではインターネットへの接続が不安定なので、ウェブサイトを作ったり、Eメールに頼らずにプロジェクトを広報できる、アイデア応援サイトを活用しているというズイルさん。「プロジェクトに欠かせないボランティアを集めるのに、このウェブサイトは本当に役立ちます」

オンライン決算サービス「ペイパル (PayPal)」のアカウントを作る：オンラインで簡単に少額の寄付を送ってもらえるよう、オンライン決算サービスの「ペイパル (PayPal)」のようなサイトにアカウントを作成するのも一案です。一度に多額の寄付をお願いするのではなく、小額の寄付を簡単に送れる方法を提示するとともに、寄付金がどのように利用されるかについても明確に伝えることが大切です。

パートナーを見つける: 大規模なプロジェクトの場合は、ほかのクラブからの資金的協力が必要な場合もあります。例えば、クラブの奉仕プロジェクトで1,000ドルが必要だった場合、ロータリーのアイデア応援サイトから資金の面で協力してくれるパートナーを探すことが可能です。必要に応じて、追加のパートナーを求めるすることもできます。プロジェクトを掲載すると、トップページの「プロジェクトのスポットライト」に表示されたり、ロータリーの出版物で紹介される可能性があります。

サポーターの意欲を高めるプロジェクト概要を書く：寄付者を圧倒せずに、寄付への意欲を高めるような概要文を書くことが重要です。なかなか難しいかもしれません、プロジェクトへのサポートをより多く得るために、分かりやすい概要を書くことが求められます。以下にコツをご紹介します。

・友人や同僚と話しているかのようなトーンで書く（業界用語や技術的専門用語は避ける）・1つの長い文章で1段落としない（2～3行の文章に分ける）・最も重要な情報を強調するため、各段落に小見出しをつける・リストは箇条書きにする・大文字だけを利用するのは避ける（英語の場合）・書いた文章を読み直す（できればほかの人に読んでもらい、誤字脱字や文法の間違いを正してもらう）プロジェクトの目標を明確に：プロジェクトで達成したい目標を明確に示し、それに必要なリソースを挙げましょう。このためにもプロジェクトの概要を紹介する際は、支援者に目的が分かりやすいよう、箇条書きを利用した簡潔な文章にしましょう。

写真を撮る：プロジェクトの概要を掲載する際、達成しようとしていることを表現する写真を掲載することをお勧めします（できれば受益者の写真）。写真を掲載する場合は、著作権の問題がないことを確認しましょう。

寄付へのお礼は迅速に・寄付を受け取ったら、迅速

に寄付者にお礼をすることが大切です。その後、プロジェクトの進捗レポートや追加の資金ニーズに関する情報を送るようにします。しっかりと報告することで、再度寄付をしたいという意欲につながる可能性があります。

## ガーナの村にきれいな水を

「5歳未満の子供たちの5人に一人が汚染された水を飲んで死亡している」。これが世界の現実です。しかも

飲み水を汲みに行くために、毎年世界で約400億時間が費やされ、その作業は主に女性と子供たちが担っています。

アフリカのガーナでは、人口の20パーセントに当たる約500万人が、汚染された水を使っていると推定され、その結果、多くの人びとがさまざまな病気の危険にさらされています。

ロータリー会員、マーティー・ハタラさん（米国アラバマ州、ボアズ・ロータリークラブ）は、2010年に初めてガーナを訪れ、孤児院でボランティア活動に参加した時、地域の人びとがきれいな水を求めて苦労している様子を目の当たりにしました。「場合によては、11キロも歩いて水を汲みに行かなければならなかつた」と振り返ります。

ハタラさんのこの経験について知り、ボアズ・ロータリークラブと、同じ州にあるアラバスター・ペラム・ロータリークラブの会員が立ち上りました。ロータリー会員たちはガーナのボルタ地域の村、アフラオで、飲み水用の井戸を掘り、村人が長い時間をかけずに、近くできれいな水を汲めるようにしたのです。これで、村の母親と子供たちが水汲みに苦労する必要がなくなりました。

ハタラさんはその後、地元の人に別の地域に案内してもらいました。アフラオと違い、その地域には地表に水源がありました。ロータリー会員たちは、その水源から9つの村まで送水管を敷き、市場、寄宿舎、学校、養鶏場など主要な施設で水が使えるようになりました。ハタラさんはその際、水道と下水管の専門家、アラバスター・ペラム・クラブのクレイグ・ソレンセンさんの力を借り、地元の人びとにもこのプロジェクトの進行状態を常に知らせ、実際に参加してもらいました。当初6つの村まで敷くはずだった送水管を9つの村に延長できたのも、地域のリーダーの紹介で、地元の労働力を確保できたからです。このプロジェクトは去る3月に完了しました。このプロジェクトに参加したクラブの会員たちは、ほかの地域でも水源を探し、もっと多くの人びとの日常を改善したいと考えています。ソレンセンさんはこう語ります。「地域の人びと



と話し合っているうちに、出水量が多い井戸から送水管を敷き、それを延長することで、最初の2つのプロジェクトと同じぐらいの資金で、遠隔地まで水を送ることができることがわかったんです。村人の生活が改善されていくのを見るのはとても満足感があります。きれいな水が利用できるようになり、これから数世代にわたって、人びとの保健、教育、収入の面でもとてもいい影響があると思います」

## ちびっこライターの作文が

### 世界を駆ける

こはジャマイカの小学校。11歳のジョーダン君が、ある子犬の話をクラスで発表しています。その子犬は、配水管に落ちて衰弱していたとき、ジョーダン君の家族に助けられました。その後、浜辺で遊べるほど元気になり、やがて大きな犬に…



この話は、7~11歳の生徒たちによる児童作文コンテストに寄せられた話です。コンテストは、カリブ地域のロータリーEクラブが中心となり、周辺の10カ国が協力して主催されました。

子どもたちの作文が世界に

児童作文コンテストのアイデアを思いついたロータリー会員は、英国のロータリークラブが主催した青少年プログラムからヒントを得ました。コンテスト規約や公募方法を学び、これならインターネットで活動するEクラブにもできると思ったそうです。その後、地元クラブの連携を駆使して、多くの小学校から作品を募りました。2013年の第1回コンテストでは200の応募があり、2014年には300名のちびっこライターが参加。協力クラブごとに3つの地域賞を選び、主催者のEクラブが10の優秀作品を選びました。参加者には図書券をプレゼントし、さらなる読書を応援します。優秀作品は、「The Butterfly StoryBook」という一冊の本となって出版されました。また、ハイチのボランティア学生によってフランス語とクレオール語に翻訳され、近くスペイン語にも翻訳される予定です。主催者のEクラブは、子どもたちの読み書き支援に役立ててもらおうと、この本をジャマイカの識字協会に寄贈。識字協会は、これのお返しにと、カリブ諸国でのコンテスト普及を応援することに同意しました。また、バージン諸島のロータリークラブが地元での識字支援に活用するために500部を購入したほか、カナダ、エチオピア、ハイチ、インド、英國の小学校への寄贈用にさらに多くを購入しました。

この本は、Amazon.comで購入できます。収益は読み書き支援の活動に充てられ、図書館への寄贈にも最適です。